

tam tam

2020.05

VOL.04

04

P1 [特集]
丹波市活躍市民補助金でまちづくり

P2 [特集]
丹波市活躍市民補助金でまちづくり

P3 隣の自治協さん「(一財)神楽自治振興会」
丹波市民、学びの窓「地域づくりとICT」

P4 繋ぐ!市民活動「えん」
活動事業者紹介「ゆめの樹 野上野」

SPECIAL FEATURE

今号の特集

活躍市民補助金を
活用したまちづくり



2019 年度交付団体による事業

昨年度、有志による実行委員会、市民活動団体、自治協議会などによる市の補助金を活用した 14 の事業が実施されました。次世代へ文化の継承や学びを共有する機会の提供、交流人口を増やす地域活性化などの事業です。

各事業の実施までには、メンバーによる入念な企画と準備が必要です。地域社会を取り巻く課題をどのように受け止め、どのような人やモノを巻き込み、どのように解決していくかという議論はとても大切です。さらに自己資金の確保や計画書・

予算書の作成、第三者による事業計画の審査を経て、補助金が交付されます。

「課題を知って欲しい」「課題をみんなで考えたい」「課題を解決する仲間になって欲しい」そんな熱い思いを込めた事業は、補助金（＝税金）という市民の援助によって実現していくこととなります。市民活動支援センターは関係機関と連携しながら、事業の企画や補助金の活用などのお手伝いを通して、皆さんの思いを具現化していく応援をしていきます。



Topics 01 補助金を活用してみませんか？

昨年2月23日に「丹波市活躍市民によるまちづくり事業応援補助金」を活用した市内14団体の活動報告会が市民プラザで開催されました。この補助金は、「提案型補助金」（上限30万円で、初回の交付から3年間まで）と「応援型補助金」（上限5万円で、1回のみ）があり、地域課題の解決を目指す市民が主体的に企画・運営する事業に対して交付されます。有志が集まった実行委員会や市民活動団体、自治協議会や趣味グループ、ボランティア団体やPTAなどを対象にした補助金です。

国内では国・地方公共団体・民間団体・企業などが様々な分野の振興を目的にした多くの補助金や助成金事業があります。中には新型コロナウイルスの影響に対応した補助金も新設されています。それぞれの補助金には目的やルールがあり、例えば丹波市活躍市民補助金は市内のまちづくりや生涯学習の推進を促すため、丹波市独自に条例で定めて運用しています。

交付が承認されるまでには、まず決まった期日までに指定された様式による申請書や事業計画書を提出します。その計画は基準を設けて審査され、補助金交付の可否や金額が決まります。また事業終了後には収支決算を行い、報告書を作成して提出します。補助金を交付されることになるか否かは、事業計画書をどのように作成するのかにかかってきます。併せてこの補助金の「提案型補助金」の場合は審査員に対してのプレゼンテーション（事業説明）が求められます。（2020年度は新型コロナ対策のため書類審査のみになりました。）

手間のかかる手続きのように見えますが、この一連の手順は皆さんの団体がやろうとしている事の必要性を考え、実施までのスケジュールやスタッフの配置、準備するものなどの整理を行う大切な作業になります。自分たちの事業に合う補助金をどのように探したらいいのか、事業計画などの申請書類をどのように書いたらいいのか、審査員に納得してもらう説明の仕方などのご相談は市民活動支援センターまでご連絡ください。



丹波市活躍市民補助金の活動報告会

Topics 02 丹波市活躍市民補助金を活用した事例から みんチャロン2019実行委員会

トライアスロンを通して、より多くの方に、参加者それぞれのスタイルでチャレンジできる大会を実施したいという思いで、みんなのチャレンジトライアスロン in 丹波青垣 2019 を開催しました。長年、市内で開催されてきたトライアスロン大会を継承し、さらに工夫していくため、当日は丹波をPRするブースを設置し、丹波の魅力発信にも取り組みました。

スタッフと参加者の双方で満足度の高い大会となりましたが、市内の方にまだまだ知られていないことから、さらに広報活動に力を入れ、今後も継続的に開催できる体制を整えていくことを目指しています。



丹波柏原ふるさとガイドクラブ



柏原地域における観光ボランティアガイドの後継者養成を目的に、崇廣塾「柏原のええとこ一見て・聞いて・伝えよう塾」を開催しました。

開催時期の設定や参加者募集に苦慮し、様々なことに留意して開催することの大切さを実感しました。結果的にボランティアガイドの養成まで至りませんでした。元NHKアナウンサー村上信夫さんや織田家18代当主の織田信孝さんを講師に招く講演会など、ボランティアガイドの存在を市民にアピールし、クラブが主体となった事業には充実感が感じられました。今後もこのような事業を継続していく予定です。

隣りの自治体の さなご協

TONARI no
JICHIKYO san

一般財団法人
神楽自治振興会

「エコミュージアム神楽」

一般財団法人神楽自治振興会は青垣地域の北西部、約 540 世帯、人口約 1,300 人、7 自治会の旧神楽小学校区にあります。神楽地区は県から多自然居住地域の指定を受け、地区全体を自然環境博物館に見立てる「エコミュージアム構想」を策定しました。神楽自治振興会ではこの構想を地域ビジョンに掲げ、地域の自立と活性化を目指す取り組みや、都市住民との交流を通じた田舎暮らしを促進する事業を推進してきました。今、神楽地区は 1 ターンが住民の 1 割を占める地域となっています。

2020 年 2 月には神楽の歴史や集落ごとの魅力をまとめた「神楽の郷お宝 BOOK」と 7 つの集落の歩き方をまとめた「集落マップ」を発行しました。

地域の魅力を発掘する地域資源探索隊

神楽を「かぐら」ではなく「しぐら」と読む理由や地域の歴史、文化をまとめた資料がなかったことからお宝 BOOK を作るようになりました。製作には、地元住民が地域を再認識し、都市との交流につなげる狙いから丹波市のシティプロモーション補助金も活用しています。

各自治会が選出した方を編集委員とし、資源の資料提供をお願いするところから製作は始まりました。そして地域住民から「地域資源探索隊」を募集し、編集委員が作った資料をもとに半年間かけて実際に集落を周り調査しました。調査は地域住民にも呼びかけ、多いところでは 30 人から 40 人もの人が探索隊と一緒に集落を歩き、地域の歴史や魅力について触れる機会ともなりました。このお宝 BOOK と集落マップの活用について、理事長の足立仁さんは「取り上げている神社仏閣や歴史は集落形成や地域の魅力にも大きく影響を与えているので、若い人たちや子どもたちにも知ってもらい、私たちの思い出と重ねながらおもしろい話し合いにつなげたい。」と話されています。



地域にて調査する探索隊と参加住民



お宝 BOOK を手に持つ役員さん

丹波市民、学びの窓

地域づくり活動と ICT の活用

ICTとは Information and Communication Technology の略称で「情報伝達技術」と訳されます。通信技術を使って「人と人」「人と情報」がつながることを言います。

新型コロナウイルスの影響が広がる今、総会などの会議開催に頭を悩ませるだけでなく、今年度の活動計画を立てられない、回覧版を回すことや、会費の徴収にも気を使うという声まで聞かれます。

以前から ICT として代表的な LINE や Facebook 等の SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)を地域づくりに取り入れることで、活動の負担軽減や費用削減、活動への

参加につなげている実践はありました。最近では、老若男女問わずスマートフォンを持っている人が増え、それぞれの端末で、回覧板や行事の出欠、災害時の安否確認などができるサービスもあります。

丹波市の最新事例では、氷上町横田自治会が動画配信サイトで中継する総会を開催されました。視聴参加でも電話で意見を伝えられる工夫や従来通りの実出席や委任もできるようにしたことで、三密を避けながら、参加しやすい場として上手く実施されました。

今のような非常時でなくても、「人と人がどうつながるか」は、地域に

とって重要な課題です。移動の手段がない、外に出ることが困難といった状況が身近に起き始め、若い担い手も、忙しい、自宅にいない等により参加が減っていると聞かれます。

難しいと思われるかもしれませんが、今を将来の地域づくりに備える期間として捉え、ICT という道具を地域でうまく利用するための実践と学びの機会にしてはどうでしょうか。その時は、身近にいる得意そうな人に「ちょっと教えてよ」と声をかけることをおすすめします。



横田自治会の総会の様子



繋ぐ！市民活動

NPO 法人 たんば子ども若者支援ネットワークえん

「たんば子ども若者支援ネットワークえん」は、不登校やひきこもりに悩む親たちが 22 年前に結成した『子育て親の会』の活動支援と、課題を抱え孤立する人たちの自立を共に考えるため 2016 年に設立しま

した。親の会は例会・学習会・相談会を通じて、経験者同士と一緒に悩み、励まし、ひきこもりの問題を勉強しています。親が元気になることで当事者に安心感を与えられるよう、この活動を支援しています。



拠点 Tamariba 外観



ある日の居場所 Tamariba

居場所『TAMARIBA』は不登校、ひきこもり当事者のほか、誰もが気楽に過ごせる居場所を毎週日・月曜日に開放。第 2・3・4 日曜はこども食堂『たまりば食堂』を開いて、様々な利用者が一同に会して食事します。

フリースクール『たまりば』は月・木曜日に居場所 TAMARIBA で開催。今年度は季節毎に、多様な人たちがともに成長していく場として特別教室を実施します。

また新たな事業として、ひきこもり学習会実行委員会を立ち上げ、他団体と連携したひきこもり支援なども始めています。最近では TAMARIBA に集まる若者たちが主体となった拠点活動を計画できるようになってきました。互いの意見がぶつかり、会議がとん挫することもあります。見守り一緒に計画を作っていくとしています。

ひきこもりの方の抱える複雑な課題に寄り添い、相談や受け皿として活動の充実を目指しています。



活動事業者紹介

株式会社ゆめの樹 野上野

自治会が株主である「株式会社ゆめの樹 野上野」は、全国でも珍しい形で設立しました。2009 年「野上野まちづくり協議会」設立から続く循環型まちづくり促進の理念を守りつつ、公益性と収益性の両立を目指します。

拠点施設「ゆめの樹」では、開設当初に大勢のお客さんが来店されましたが、スタッフの対応が不十分であったとのこと。しかし、「野上野の資源を最大限に楽しんでもらう」とことと、「地元スタッフで持続的な事業にする」という考えから、予約団体の受け入れを充実させてきました。「利用者の満足度も高く、旅行会社からの依頼も着実に増えています。」と旅行業の経験もある

従業員の中井健さんは胸を張ります。

関西国際大学と連携し、系列保育施設へ丹波特別栽培米「春日の庄米」の提供

にも繋がりました。また、食育にも注力し、子どもたちの農業体験やお菓子作り体験を実施しています。事業の広がりを表した樹と、丹波市 6 地域への貢献という願いが込められたロゴマークのように、丹波の実りを様々な形で繋いでいこうと活動しています。



新芽が開いて明るい栗畑



事業理念を語る中井さん



拠点施設「ゆめの樹」



丹波市市民活動支援センター

TAMABA CITY CIVIL AND COMMUNITY ACTIVITIES CENTER

〒669-3467 兵庫県丹波市氷上町本郷300 丹波ゆめタウン2階 丹波市市民プラザ内
TEL 0795-82-8683 MAIL ccac@tamba-plaza.jp

開館時間 10:00 - 18:00(会議室は 21:30 まで) / 毎週月曜日・年末年始休館

<https://www.tamba-plaza.jp/ccac/>

【情報誌へのご意見募集】

「たむたむ」について皆さんからのご意見、ご要望をお待ちしています。役立つ情報紙と一緒に作っていきましょう。